

2017 深秋 街ing いばらき「いばきた」を行く

案内人 入交 享子

12月10日(日)9時30分 街ing いばらきのメンバー10人は、bioa 代表の瀬口さんと関西国際大学の面々と一緒に新名神茨木千提寺パーキングエリアに立っていた…。

開通当日を迎えた新名神にどうして…!?

これも人と人のつながり 「人持ちで つながる 人カタウン」 のおかげです。

茨木市が主催する「まちづくり塾」に参加した有志で街ing いばらきを設立して15年。茨木はもとより近畿の主なまちづくり拠点や街並みをフィールドワークする達人たちの集まりといっても過言ではないメンバーが、今一度我が町に目を向けたのは「いばきた」の変容ぶりを見届けるためでした。

ただ、街ing ニュース10月号にあるように、高槻～川西11月開通予定でしたから、開通日当日にFWが重なるとは思ってもみなかった出来事でした。が、しかし、11月23日の開通前のイベントで「カフェ場」を出店した折には、瀬口さんを通してネクスコ新名神大阪西事務所の方に、当日現場の説明をお願いしたものの、当初のスケジュールを大幅に変更せざるを得なくなりました。そのために瀬口さんや安威川ダム事務所の川崎さんには直前までスケジュール調整のため大変ご迷惑をおかけしました。ただでさえ休日出勤が多い中、開館日でもない安威川ダム資料館を開館いただくこととなりました。それは、ネクスコの方にとっても同じことです。開通当日ということで本当は本務でバタバタの中を、相当な工面をいただき貴重な見学をさせていただくことができました。感謝です!!

皆さんに見ていただきたかったのは、安威川ダムと新名神&それぞれのピオトープに加えて、茨木でたった1軒となった独活農家を継いだ千提寺ファームと茨木版ダッシュ村こと「茨木風と土の杜」。そしてキリシタン資料館に里山センター…そして、そして…「いばきた」にはまだまだあるのです～。

15年前若かった私たちもそれなりに歳を重ね、高低差のある長距離を完歩することは難しく、初めて車を使うことを提案させていただきました。杉田さん、清野さんには快く車を出していただき本当にありがたいことでした。10年ほど前のFWではバスで見山の郷まで行き、キリシタン資料館からはバスの本数がなく、阪急茨木市駅まで歩いて帰ったという…あの時ご一緒した杉田さんの小学生だった娘さんは、今や一児の母になっておられます。本当に月日の経つのは早いものですね。

さて、安威川ダム建設が始まる前から大林組がまちづくり分野に人を配置し、府も安威川ダムファンづくりの会を発足させています。当初から教育という観点でかわりを持たせていただき、自然環境と人・やまとまちを考えてきました。ダムだけではなく新名神の工事とも相まって、山は大きく変わることを余儀なくされてきました。山の人たちの暮らしが大きく変わっていくのと同時に、町の中にも変化が押し寄せてきていました。交通の要所にあった茨木の大手工場が老朽化に伴い移転し、大学ができたり、新しい流通センターができたり…こうやって市全体が変容を遂げようとしているとき、私たち市民は何をすべきでしょう? ふと立ち止まって考えてみるとき…? 私は今一度私たちの暮らし全体を見つめなおしてみる時期が来たんだと…そう思いました

一瞬人口が増えるように見えても、止めることのできない人口減少の波は、容赦なく茨木にもやってきます。また、温暖化による自然災害はもとより地震への備えは、市民全体で考えなければならない「おおごと」でした。私たちは未来に何を残すか?子どもたちにどんな豊かさを残してやれるか…今こそ真剣に考えなければならない時期だと思いました。

以前から何度か書いていますが、茨木は都会にありながら農林水産業にも近い町。市民の食べるものは市内で作ることができる町。農林水産業従事者を増やすことと同時に、それを支える仕組みを作らなければなりません。そしてまちの人が山を支える人にならなければなりません。そのためには町の人は山をそして山の人を知り、つながることが大事です。もちろん山の人が町の人を知ることも大事です。双方向の学びが必要です。その動きはこーい、二年活発になってきてはいますが、相互理解はまだまだと感じています。まちづくりのよき理解者である、そしてまちづくりの達人でもある街 ing のメンバーこそ、やまを知り、理解し、やまとまちをつなげる人になってほしいと考え、企画した次第です。

茨木のやまには素敵が一杯詰まっていました。一つ一つ振り返ってみましょう。

新名神茨木千提寺パーキングエリア

大型車両の休憩に特化されたPAです。開通前の休憩施設には靴を脱いで入らせていただきました。男子トイレには洗髪コーナー（洗髪・洗顔専用）があり。トイレの外には「壁ストレッチ」が二種あり、長距離運転者には人気PAになるでしょう。女子トイレにはオストメイト・乳幼児設備・パウダーコーナーと、使い勝手がよさそうでした。また、モニタの前に立つと音声による道路交通情報が聴取できます。さらに、自動販売機はたくさん。茨木童子が描かれたものもありました。明るく、木をふんだんに使う手法は流行りでしょうね。建物の外にはかわいい演出（花壇の壁には清溪小学校の生徒一人一人が描いた絵が陶板ではめ込まれています）。さらに、時々出店もあるようです（見山の郷など）。

さて、その横にあるピオトープは地元の大勢の皆さんで作られたものです。今回ご案内くださったネクスコの方は当初から熱心に地元の方の声を拾い、共に歩もうと努力されている方で、私はその姿に心打たれた一人でした。ただ、残念なことにピオトープの周りには背の高い柵で囲まれています。もちろん市の担当課としては安全対策なのですが…自然再生のための施設の周りにこれは興覚めです…。でも、子どもたちの安全のために、自己責任が問にくい社会にしてしまったのは私たちですから、行政を責める前にできることをしなければなりませんね。

開通前の高速道路に立たせていただきました。まちからは見えないところで壮大な工事が着々と進んでいたのでした…今頃ビックリしている方も多かったと思います。



安威川ダム&資料館

大門寺北のバス停から10分くらいの高台にダム資料館がありますが、まずは高台からダム建設現場を眺めながらロックフィルダムの解説をしていただきました。まだ、土台の基礎工事の段階で、完成時の姿が想像しにくいですが、ちゃんと今の姿も目に焼き付けておこうと思いました。ちょうど茨高で初めて担任をした2001年に安威川ダムについて出前授業をしていただいた時、100年に1度の大雨のために自然を壊さなければいけないのか・自然には勝てないのだからあきらめるべきでは



…の問いに、行政としては 100 年に 1 度の確率でも、リスクがあるとわかれば放置はできない…と聞き、人間でどれだけ偉いの？と思ったものでした。建設が正式決定されてからは、ちゃんと見守り育てていかねばという思いの方が大きくなったのは人間の身勝手というものでしょうか？ 兎にも角にも皆さんに知ってもらおうべきということで始まったのが安威川フェスティバル。私は子どもたちの未来に「食育」をと考え、「つくる・たべる・つどう」を体験してもらおうと「カフェ場」「宙いもプロジェクト」「踊る食育ペットボトルピザ」を紹介するようになりました。年々多くの人を巻き込み、様々な取り組みがなされています。是非見て・聞いて…だけではなく体験・感動して、日常の暮らしの中で小さな何か一つでも行動変容をもたらしませんか？

帰りに、ピオトープを案内していただきました。水田ではもち米が栽培され、ローズWAMで餅つきをされ、皆さんにふるまわれました。養蜂は美味しいはちみつができ、安威小学校の子どもたちとはちみつピザづくりなどもされています。次年度はもう少し山の中で箱の数を増やす予定だそう。

キリシタン資料館

昔に行ったからもういいや…という方は一人もおられず、皆さん熱心にビデオ視聴と見学をし、隠れキリシタンの里への理解を深めました。改めて大切な宝を見たような気分でした。もっともっと大切にしながら伝え、広めたい事柄でした。出版された絵本を紹介しようと思いながらできずに残念！また今度。

M's カフェ

山の中にこんな素敵な場所があるなんて…総勢 16 人で押し寄せ、遅いランチになりましたが、待つことが苦にならないほど、心地よい場所でした。オーナー夫婦が建築家ということで、想いがこの居場所にこもっています。子どもさん方も芸術家で、豊かな時間が過ごせます。ランチとコーヒーとデザートまでフルで「美味しい」を満喫しました。



茨木風と土の村

茨木版ダッシュ村を見せたかった私は、主がお留守中にもかかわらず皆さんをご案内しました。手の入らない休耕田は荒れ放題でしたが、学生やいろいろなつながりの大人たちの手で開墾が進められています。何か一から始めるわくわく感と何か小さなものでも完成時の満足感がこの場所に、仲間に広がります。ここでも「つくる・たべる・つどう」をやっています。みんなで寄ってたかって育てようと思います。

皆様はいかがでしたか？また誰かと行きたい！と思ってくだされば大成功！！皆々様に感謝♡